

1 自己評価及び外部評価結果 (1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成22年1月16日	評価結果市町村受理日	平成22年5月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192200018&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人となつた会の会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節感を感じて頂く為や楽しみを持って頂く為に 外出支援や外食支援を多く計画し 利用者と共に楽しいひと時を過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム独自の理念と、それを分かり易く表現した「職員心得」を作成し、利用者に寄り添い、その人らしく生活してもらう介護を目指しているホームである。介護計画の「課題とニーズ」、「短期目標」、「サービス内容」を、それぞれ、「今の私」、「私の思い」、「スタッフにできること」、に言葉置き換え、利用者一人ひとりの介護記録を、「スタッフにできること」の項目に付けられた番号ごとに毎日残しながら、職員は、日々、一人ひとりの介護計画にそった介護を実践している。利用者には、それぞれ異なった居室、広くつるげる共用空間、日光浴が楽しめる広い庭があり、職員は、利用者の中に入って一緒に楽しみながら働いている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ その人らしく生活し続けて頂けるようなサービス提供を理念とし、職員間で共有し合い 実践につなげている	今年度、ホーム独自の理念を皆でつくり、よりわかり易くした「職員心得」も作成した。「職員心得」は毎日、理念は会議の度にふり返り、日々の介護で実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の保育園で行われるイベント行事に声をかけて頂き、参加したり、近所の喫茶店に出向いて、顔合わせや交流の機会をつくっている	自治会、保育園、行きつけの喫茶店、美容院などとの交流が深まっている。ホームからは、ホーム行事への参加の呼びかけや、認知症の講座、介護相談に応じられることを自治会に伝えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、自治会や民生委員の方々へ生活状況や支援の取り組みについて紹介している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	会議では、事業所報告書を作成し、サービスの状況を伝えると共に参加メンバーから質問や意見、要望を聞き、取り組めることから実行している	会議と併せて行う行事の企画、曜日の配慮、議事録の送付を行い、多くの家族の参加と意見が得られるよう努めている。今後は、地域を重視し、商店、警察、消防など会議への参加を呼びかけようとしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の介護認定調査などで来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について話をしたり、利用者の生活状況やニーズを伝えたりといった連携を図っている	市町村担当者に、スプリンクラー設置や、利用者について、相談をしたり、予備室の緊急時の利用を提案している。推進会議の場を借りて、ホームの状況を説明しているが、書面等で定期的にホームを紹介するものがない。	市町村担当者や地域の人達にホームの理解を深めてもらうための一つとして、「南濃だより」の発行を再開されることを期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したり、外へ出たいと要望があった時は、状況をみて声かけをし、一緒についていく等、安全面に配慮している	個々の職員が身体拘束をしないケアを心がけている。外出したい訴えがあったり、様子があるときは、さりげなく同行し、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、見過ごされないよう日々のサービスを提供する中で、ケアを見直し 防止徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、管理者が一人に対応する為、他の職員は、理解していないが、他事業所で勉強会が行われている時は、職員に声かけを行い参加を促している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、重度化やみ取りについての対応方針、医療の連携について説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情、不満はすぐ相談して頂けるよう 又、事業所以外にも苦情窓口があり、気軽に相談して頂けるよう、日頃より声かけを行っている	面会時に職員から声をかけたり、書面で呼びかけたり、色々努力しているが、家族からの意見がなかなかホーム側に伝わってこない。	テーマ別に家族と話し合う機会を設けたり、アンケートをとるなど、家族が意見を表せる場や方法を工夫し、そこで出た意見を運営に反映させることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見や要望を聞くようにしている	職員に意見があればリーダーに相談し、結果が管理者に伝わる仕組みができています。管理者も自ら職員に相談を持ちかけ、一緒に問題解決できるよう心がけている。職員から管理者に直接意見を言いやすい雰囲気もできています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けての支援や研修への参加に対し、奨励してくれている。又、現場で職員の努力している姿に励ましの声をかけてくれている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるよう声かけを行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は、関連の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事で、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前には、必ず本人と面談をし、心身の状態や本人の思いに向き合い安心して入所されるよう 努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望を理解し、当ホームにおける対応システム等を説明し、安心して利用して頂けるよう努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、必要なサービスについては、検討していくよう努めている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の話に耳を傾け、時には相談にのって頂いたり、共に支え合いお互い和やかな生活が送れるよう場面づくりや声かけに努めている</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、家族と同じような思いで支援をしていけるよう心がけている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人や知人には、電話や手紙で連絡を取り合っている。又家族の協力をもとにかかりつけの病院へ受診に出かけたり、行き慣れたお店へ買い物にでかけれるよう支援している</p>	<p>友人、知人の訪問があり、電話、手紙のやりとりの支援も行っている。行きつけの美容院や商店等、馴染みの場所へ出かける支援も積極的に行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係や一人ひとりの性格・趣味を把握し、日々の変化、情報を職員間で共有するよう努めている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設でのサービスが終了となった方や他施設へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、当施設での行事に参加して頂けるよう心がけている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いや意向を把握し、支援に繋がるよう努めている	職員は、日頃の雑談の中や、1対1で話をしている場面で、利用者の何気ない一言を聞き逃さないよう意向の把握に努めている。それらを、介護記録に記載し、計画に反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から少しずつ聞き取りセンター方式を作成し、活用している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを記録し、職員全員が把握できるよう努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、カンファレンス時、職員間で意見交換・モニタリングを行い介護計画に生かしている	介護計画の「ニーズ」、「短期目標」、「サービス内容」を、「今の私」、「私の思い」、「スタッフにできること」に置き換えた介護計画を作成している。職員は介護計画を共有し、毎月、全員でアセスメントやモニタリングを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者のその日の様子や、実践したケア等を記録に残し、交代時には申し送りをい情報共有の徹底に努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院・外出支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議時に、自治会や民生委員、市役所の方に参加して頂くことで、地域の周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を気付いている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるように、また状況に応じて本人や家族が希望する医療機関に、診察が受けられるよう支援している	多くの利用者はホームの協力医をかかりつけ医としている。医療機関の受診に家族が付き添えない場合は、ホームで通院の支援をしている。受診結果は、かかりつけ医や家族に連絡している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの表情の変化に気を配り 早期発見に努めている。変化に気づいた時は、直ちに看護師に報告し、看護師が不在時でも職員と看護師は連携を取る事で 適切な医療に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入所サマリーを作成し利用者の情報提供を行い、見舞い声かけを行っている。又家族や主治医のDrと情報交換を行い、退院可能な段階でなるべく早く退院できるよう、アプローチしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、安心して納得した最後が迎えらるよう、随時意志確認をしながら取り組んでいる	入居時に、希望があれば終末期まで対応することを家族に伝えている。利用者の身体状況の変化に応じ、関係者全員で看取りについて相談しながら、その都度対応を確認し、その結果を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急法や蘇生術の勉強会を行い、職員全員が対応できるようにしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練を行い、災害時の避難経路の確認や消化器の使い方などの訓練を行っている。又災害時には、自治会の協力が得られるよう会議時に、自治会長や民生委員の方に声かけを行っている	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回、その内の1回は夜間を想定して実施している。長期災害を想定した水や食料の備蓄や、地域住民との協力体制については、今後の課題としている。	地域住民との協力体制については、今後、進展が計られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、常に言動や対応に注意し、情報収集や外部との連携の際には、個人情報・プライバシーの保護について意識し声かけを行っている	職員は、自分自身がされてはいやだと思ふことを書き出して、プライバシーを損なわないように日々の介護に活かしている。居室は入口に暖簾をかけたり、覗き窓を小さくして中が覗き込まれない対策を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、自分の意見を押し付けず、一人ひとりの意向を引き出し、答えを待つ姿勢を心掛けている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、散歩・レクなどは、本人とも相談をしながら支援を行っている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、美容師が訪問している。又朝や入浴後の着替え時は、本人のこだわっているスタイルを把握し、その人らしさを保てるよう努めている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の献立を相談したり、手伝いや後片付け等、一緒に取り組んでいる。又食材や調理方法は、本人の好みに合うよう工夫し、食事時は一緒に食事を取りながら楽しい時間を共有している	利用者毎の「好きなもの、嫌いなもの、食べてはいけない物」は表にして、冷蔵庫の横に貼り出して、一人ひとりの好みに対応している。得意の料理づくりや配膳・下膳を職員と一緒に利用する利用者もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量が把握できるよう記録し、献立にも配慮している。又、ご本人の好きな食べ物や食べやすい物を出すように支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけを行い、洗面所にて行って頂き、できる力に応じて見守りや一部介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレにて排泄出来るようその人にあつた支援をしている	利用者には、2人介助してでも、トイレで排泄してもらうよう支援している。夜間はオムツの利用者もいるが、日中はオムツ 紙パンツ 布パンツへと移行していけるよう支援をつづけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取り入れたり、十分な水分補給を促す事で、自然排便につながるよう取り組みをしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	その日の体調を把握し、本人の希望に合わせて入浴を行っている	一般浴、シャワー浴、機械浴の設備を揃え、毎日湯を張って、いつでも入浴の希望に添えるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、対応を変えながら週2回以上入浴が出来る工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、生活リズムを壊さないよう利用者に合わせて、ゆっくり休息がとれるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の目的・用法等をいつでも見れるようファイル作成してある。又、服用時には、側にいて飲み込み確認を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活リズムを尊重し、家事などできそうな方には行って頂く事で、その方の力を引き出し、活かしていけるよう支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に計画を立て、家族との連携を図り、本人の状況に応じ、一緒に外出できる機会を作っている	天気が悪くない限り毎日散歩に出かけている。元気な利用者が歩行困難な人の車椅子を押して一緒に外出している。毎月ユニット毎に出かける外食は利用者の楽しみとなっている。個別の買物支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向を取り入れ、本人の力に合わせて所持して頂いたり、一緒に買い物に行き、自分で払う機会を作っている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時対応している。又、家族の方からいつでも電話をして頂けるような雰囲気づくりに努めている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の立場に立って考え、時には、意見を取り入れ、居心地良く生活できるよう心掛けている	居間や広めの廊下には腰掛け易いソファや椅子を置き、団欒や個人の居場所の確保が出来るよう工夫している。特に、廊下のソファに座ると山や田んぼが見え、季節感を楽しむことができる。和室には掘コタツと雪見障子があって、団欒やゲームも楽しめるようになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日光浴が出来るよう、日当たりの良い所に椅子を設置し、いつでも座って頂けるように工夫している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を取り入れ、馴染みの家具などを置き、その人らしく過ごして頂けるよう努めている	居室は、入口前の廊下の色が変わっていたり、部屋の天井や趣きが異なる洋室と和室があって、利用者の好みに対応している。利用者は、馴染みの調度、装飾品、写真等を持ち込んで、その人らしい生活を送っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の活動性を維持する為、手すり等の設置場所を工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字4番代426-1番地		
自己評価作成日	平成 22 年 1 月 16 日	評価結果市町村受理日	平成22年5月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、その人らしく生活し続けて頂けるようなサービス提供を理念とし、職員間で共有し合い、実践につなげている		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の保育園で行われるイベント行事に声をかけて頂き、参加したり、近所の喫茶店に出向いて、顔合わせや交流の機会をつくっている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、自治会や民生委員の方々へ生活状況や支援の取り組みについて紹介している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所報告書を作成し、サービスの状況を伝えると共に参加メンバーから質問や意見、要望を聞き、取り組めることから実行している		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の介護認定調査などで来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について話をしたり、利用者の生活状況やニーズを伝えたりといった連携を図っている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したり、外へ出たいと要望があった時は、状況をみて声かけをし、一緒についていく等、安全面に配慮している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、見過ごされないよう日々のサービスを提供する中で、ケアを見直し、防止徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは、管理者が一人で対応する為、他の職員は、理解していないが、他事業所で勉強会が行われている時は、職員に声かけを行い参加を促している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアや取組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。又、重度化やみ取りについての対応方針、医療の連携について説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、苦情、不満はすぐ相談して頂けるよう 又、事業所以外にも苦情窓口があり、気軽に相談して頂けるよう、日頃より声かけを行っている		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見や要望を聞くようにしている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けての支援や研修への参加に対し、奨励してくれている。又、現場で職員の努力している姿に励ましの声をかけてくれている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるよう声かけを行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は、関連の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事で、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人と会い、話を傾聴し、思いや不安を受けとめ、安心して入所されるよう関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのサービス状況や経緯をじっくり聴くように努め、家族の抱える不安や要望を受け止める その思いを理解し、共感を持って信頼関係を築く		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を確認し、改善に向け相談しながら、場合によっては他のサービス利用も検討し、対応している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや苦しみ、不安、喜びを共に分かち合い、支えあう関係作りに留意している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、本人の状況などを連絡・調整を行い、情報を共有し、協力関係を維持している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、本人の生活暦を把握し、行きつけの喫茶店や病院にでかけるなどかわりの継続を支援している		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者一人ひとりの性格や関係性について把握し、日々の変化に応じて円滑かつ支えあえる関係が保てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も継続的にかかわりを必要とする本人・家族に対しては、相談などフォローしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を日々のかかわりから把握し、本人にとって最善な支援に努めている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人からの聴き取りからセンター方式を作成し、職員全員が把握できるよう努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身の状況など記録に残し、把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聴き、職員間で意見交換、モニタリングを行う 関係スタッフと連携をとり、現状に合った計画を作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や排泄など日々の状況、ケアやエピソードなどを個別記録に記入、更に申し送りを徹底し職員間で情報の共有、確認に努めている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院など必要な支援に対して個別に柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員や自治会長と意見交換し、利用者が安心して地域での生活が送れるよう支援している 外出支援やイベント時は、ボランティアの協力を得ている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの医師による継続的な医療が受けられるよう、また状況に応じて、本人や家族が希望する医療機関にて適切な医療が受けられるよう支援している		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの表情など状態変化等に気を配り、気づきには迅速に対応 看護師に報告し適切な医療につなげている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所サマリーによる情報提供をし、安心して治療を受けるよう見舞い、声かけを行う 病院関係者と情報交換し、早期退院に向けアプローチしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人や家族の意向を確認している 状況変化のたびに家族、主治医を交え繰り返し話し合い、方針を共有、支援につなげている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に職員が適切に対応できるよう、消防署の協力のもと、応急処置や蘇生術の研修を実施している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡方法や職員の連絡網、避難経路の確認を定期的に行い、的確であるか検討する 適時、避難訓練を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議、勉強会などで適宜職員の意識向上を図り、言動や対応に配慮するよう努めている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いを表出しやすい雰囲気作りに努めている。一人ひとりの意向を引き出し、些細なことでも自己決定できるよう働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いに配慮しながら、支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、なじみの美容師が訪問している。職員は、一人ひとりの好みなど把握している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントをもとに一人ひとりの好み、力に応じた食材や調理方法を工夫している。できる力に合わせて職員と一緒に準備、同じテーブルで食事を楽しみ、片付けをしている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食記録し、職員間で情報を共有、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が行ったり、声掛け、一部介助などの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄サイクルを把握し、自立への方向(トイレでの排泄)に向けて支援している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常の排便サイクルを把握し、便秘予防として、食材の工夫や水分を多めにとるなど、自然排便につながる取り組みをしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に配慮して、安心して入浴を楽しめるよう支援している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や睡眠状況、希望を考慮し、本人のペースでゆっくりと休息がとれるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について職員全員が把握できるよう対処箋を作成 与薬時は、必ず名前・日付・時間を確認し、見守り、または介助に行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにできることをアセスメントシートを使用して把握、本人に応じた役割を依頼し、必ず感謝の言葉を伝える		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調の良い日は、散歩や外食などの支援を行っている 季節の行事(初詣や花見)は、家族やボランティアの協力をお願いしている		

グループホーム 南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人や家族と話し合い、本人の力に応じて自己管理の支援をしている 職員と一緒に買い物に出かける機会を持つ</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望に応じて、対応している</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、フロアは季節の花や手作り作品を飾り、季節感を味わったり、居心地良い空間作りに取り組んでいる</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下やフロアにソファを置き、独りで過ごしたり、気の合った利用者同士で語り合うスペースを設けている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はプライバシーを大切に、写真や馴染みの物、好みの物を置くなど、本人や家族の意向を取り入れ、居心地良い空間となるよう工夫をしている</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの加齢、身体状況に配慮しながらも、残存能力を活かし、安全、安心して暮らせるよう工夫している</p>		